

La Biennale di Venezia
NO GENOCIDE PAVILION
AT THE VENICE BIENNALE



私たち署名者は、ヴェネチア・ビエンナーレでのイスラエルの参加禁止を求めます。美術界が、会場であるジャルディーニの〈国民国家ジオラマ〉を訪れるのを準備する中、ガザでパレスチナ人に対する現在進行形の残虐行為を行っている国家を代表する芸術の展示は容認できません。ヴェネチア・ビエンナーレでのジェノサイド・パビリオンに反対します。世界の最高裁判所である国際司法裁判所（ICJ）は、イスラエルがガザのパレスチナ人に対してジェノサイドを行っている可能性が認められることを指摘しました。ICJは、イスラエルに対し、ガザでの大量虐殺行為をやめるよう警告する暫定措置を命じました。イスラエルの指導者たちが、自分たちは国際法を超越していると宣言し、大虐殺の意図を憚りもなく宣伝している中、イスラエルによる数ヶ月（実際は何十年）に渡るガザに対する攻撃は続いています。

ヴェネチア・ビエンナーレはヨーロッパ中心主義的な万国博覧会をモデルにしており、こうした地政学的なバイアスが残っています。しかし、参加者による残虐行為を認識するよう求める声は、過去にも上げられてきました。1950年から1968年にかけて、世界的な非難とボイコットの声が広まったため、アパルトヘイト下の南アフリカは出展をやめるよう働きかけられ、ビエンナーレが展示空間を割り当てる際にも傍に追いやられました。1968年には、「人種差別政権とのやり取り」を停止させる国連決議2396号に基づき、公式な禁止措置が取られました。1993年にアパルトヘイトが廃止されるまで、南アフリカは再参加を認められませんでした。

イスラエルによるパレスチナ自治区、ヨルダン川西岸地区、東エルサレム地区、ガザ地区の占領は、1967年11月の国連決議242号によって違法とされ、これらの行為は1948年に制定された国境内におけるパレスチナ人の扱いと共に、残酷なアパルトヘイトのシステムであり、人道に対する犯罪であると、主要な世界、パレスチナ、イスラエルの人権団体は長年にわたって主張してきました。

ロシアによるウクライナへの侵略戦争が始まったばかりであった2022年、ヴェネチア・ビエンナーレとその[キュレーター](#)は、ウクライナの人々の自決権、自由、人間性を支持する[数々の公的声明を発表](#)しました。ヴェネチア・ビエンナーレの「ロシアによる容認できない軍事的侵略」に対する公的な非難には、「このような重大な侵略行為を実行、または支援した人々とのいかなる形の協力も拒否する」という宣言と、「ロシア政府といかなる立場でも結びついた公式代表団、機関、人物のイベントへの出席を拒否する」という文言が含まれていました。

ヴェネチア・ビエンナーレは、イスラエルのパレスチナ人に対する残虐行為について沈黙してきました。私たちはこのダブルスタンダードに愕然としています。イスラエルのガザ攻撃は、[歴史上最も激しい攻撃](#)のひとつです。2023年10月末までにイスラエルは、1945年に日本の広島に投下された核爆弾の威力に匹敵する数トンの[爆薬をガザに投下](#)しました。2024年1月には、ガザでの1日の死亡率は、[21世紀における他のどの大規模紛争をも上回](#)っていると報告されています。

イスラエル館のキュレーターとアーティストが発表した軽薄な声明では、暗い時代において、「あらゆることが起きている中で、自由な表現と創造のための場所」が必要だと主張しました。またしてもダブルスタンダードです。

芸術は他の物事と無関係には発生し得ないし、現実を超越することはできません。婉曲表現で暴力的な真実は消去できません。イスラエル国家を公式に代表する作品は、その大量虐殺政策を支持しています。[イスラエルによって殺害され、沈黙させられ、投獄され、拷問され、国内での移動や海外への渡航を阻まれたパレスチナの詩人、芸術家、作家には、表現の自由はありません。](#)イスラエルによって閉鎖された[パレスチナの劇場や文学祭には、表現の自由はありません。](#)イスラエルによって[爆撃され瓦礫と化したガザの博物館、公文書館、出版社、図書館、大学、学校、家庭には、表現の自由はありません。](#)[文化的大量虐殺という戦争犯罪には、表現の自由はありません。](#)

イスラエルのパビリオンが進められる一方で、ガザとヨルダン川西岸地区でのジェノサイドによる死者は日々増加しています。イスラエルのキュレーター・チームが、現代の母性について考察する「[Fertility Pavilion](#)（出生パビリオン）」を計画している一方で、イスラエルは12,000人以上の子どもを殺害し、生殖医療や医療施設へのアクセスを破壊しています。その結果、パレスチナの女性は[麻酔なしで帝王切開を受け、路上で出産](#)しているのです。国際的な文化の舞台でイスラエルの代表を公式に展示させることは、その政策とガザでのジェノサイドを支持することになります。

ヴェネチア・ビエンナーレは、ジェノサイドを行うアパルトヘイト国家を公認しているのです。

ベニスに死す、はあり得ません。
通常営業はあり得ないのです。

署名済み

ANGA - Art Not Genocide Alliance (「ジェノサイドではなくアートを」同盟) [署名者](#)
[ANGAについて](#)

[ヴェネチア・ビエンナーレでのジェノサイド・パビリオンの展示に反対。](#)

*** この書簡の以前のバージョンは、ビエンナーレの付帯プログラムにパレスチナのアーティストが含まれていないことに言及していました。 [Palestine Museum USによる](#)
[「Foreigners in their Homeland」](#) と題された展覧会は却下されたましたが、 [「South West Bank : Artists + Allies x Hebronによる "Landworks, Collective action and Sound」](#) にはパレスチナ人アーティストが含まれています。